

泣き声をあげる

仏像の伝説

中央との文化的まじわり

本城地区に所在する大興寺は、1892（明治25）年頃に「港平東本願寺説教所」としてスタートした、真宗大谷派寺院です。この寺院の境内にはお堂があり、中には阿弥陀仏像が安置されているのですが、この仏像には不思議ないわれがあります。寺伝によると、昔、農民である仲左衛門という人が深夜海辺に出たとき、赤子の泣き声がしきりに聞こえてきました。近くをあちこち探しまわっていると、何か波に漂っているものがあり、泣き声はそこから出ているようでした。急ぎ海に入り、こ

れを拾い上げてみると、焼けただけた仏像であったといいます。仲左衛門さんは驚嘆し、この阿弥陀像と観音像を持ち帰って阿弥陀堂に安置したといいます。

この伝承は、有名な長野県の善光寺の本尊の由来と類似しています。昔、日本中で流行り病がおこった時、物部尾輿という人物が、とある阿弥陀像を難波の堀江へと投げ込み沈めてしまいました。後の時代、信濃の本田善光という人物が付近を通りかかったとき、この仏像が呼びかける声が聞こえて、信濃まで連れ帰り、やがて善光寺として発展したといわれています。

大興寺の仏像も善光寺の本尊

も、火災の被害をつけた阿弥陀仏像が、据わりを失って水辺に至り、声を発して住民に拾われ、手厚く祀られて地元民の信仰を集めたという点で符合しています。また、真宗の宗祖親鸞にも似たエピソードがあり、1214（建保2）年、親鸞は今の茨城県霞ヶ浦の漁師達と舟に乗り、網で阿弥陀如来像を引き上げて大切に奉ったという話があります。

これらの話は個々の霊験譚であると同時に、垂水と中央との文化的まじわりの結果、同系統の説話が誕生したとも推察できます。同様のパターンは阿弥陀仏像に限りません。

本町の「十五郎そば」や新城区の「弘法大師の杖突き井戸」は、真言宗の祖・空海（弘法大師）がこの地を訪れた際に、秘伝のレシピを伝授したり、地下水が湧きあがりたりしたものという口伝があります。これらを史実と捉えるのかどうかは非常にロマンあることですが、空海にまつわる湧水伝説は全国に約1500か

所確認されており、学術的見解では、先人の水を大事にしよとの思いが、空海という高名な僧侶に仮託したものと考えられています。

この観点に立つと、垂水市にも、全国的に散見される民話や逸話と似た伝承があることや、全国的な歴史的人物の名前が遺っていることは、垂水の地が古来より日本中に開けていたことの証とも言えますし、異文化を受容しながら独自に醸成された垂水の文化を、我々もまた日本中に発信していくべきであると思いたらされます。



▲ 大興寺が所蔵する阿弥陀仏像

【参考】『垂水市史上巻』（1998年）（垂水史談会 中谷潤心）

GIGAスクール通信 vol.50

本市の全小・中学校で、文部科学省指定による研究開発学校「情報活用能力の育成」のカリキュラムの研究が新たに始まり、垂水市のGIGAスクール構想は、次のステージに入りました。ここでは、市民の皆様へ、その取組の様子を紹介することで、本市の教育活動に、より親しみをもっていただきたいと思います。

令和8年度テーマ「垂水らしい教育DXの創造（2年次）」 ～「GIGAスクールのまち垂水」として、さらなる一歩へ～

広報たるみず4月号でお伝えしました、GIGAスクール構想（一人一台端末の活用）が6年目を迎える本市では、今年度も「垂水らしい教育DXの創造」を掲げています。日本一の教育環境を目指す、具体的な2つの取組をご紹介します。

①「情報の時間」がいよいよ全小・中学校でスタート！

研究開発の2年目を迎える今年は、市内すべての小・中学校で「情報の時間」の授業が始まります。昨年度、垂水小学校で行われたモデル授業の成果をいかし、各学校の特色を出しながら、子どもたちがデジタル技術を使いこなす力（情報活用能力）を育てていきます。



▲ 端末を活用して、仲間と意見交流する垂水中央中学校の生徒

② ICTでつながる「子ども同士の心を結ぶオンライン交流」

これまで、子どもたちが自ら進んで学ぶ「学習者主体の授業」や、ICT機器の積極的な活用に取り組んできました。今年度はさらに、市内の小学校同士をオンラインでつなぐ、「子ども同士の心を結ぶオンライン交流」を進めます。日ごろから他の小学校の友達と、画面越しにあいさつを交わしたり、日常のお話をしたりするなど、交流の輪を広げていきます。



▲ 東京都大田区立の小学校に自校の紹介をする新城小学校の児童

教育DXの取組が全国で高く評価されました！

広報たるみず3月号でお知らせした「日本ICT教育アワード」文部科学大臣賞に続き、学校における教育DXに積極的に取り組んでいる自治体を応援する表彰制度「ICTコネクト21」において、教育DX推進自治体表彰2025を受賞しました。これで3年連続の受賞となります。これからも、子供たちの幸せな将来に向けて、都会に負けない「垂水らしい教育DX」を進めていきます。

